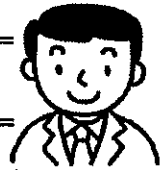


インフルエンザHAワクチンの接種を受けられる方へ



インフルエンザは普通のかぜとは異なり、インフルエンザウイルスによっておこる感染症です。高熱や頭痛、関節痛、筋肉痛が強く、併せてのどの痛み、鼻汁等の全身症状をとまいません。特に心臓に疾患を持つ方や65歳以上の高齢者の方がかかると、重症化したり、気管支炎や肺炎などを併発することが多いのもインフルエンザの特徴です。

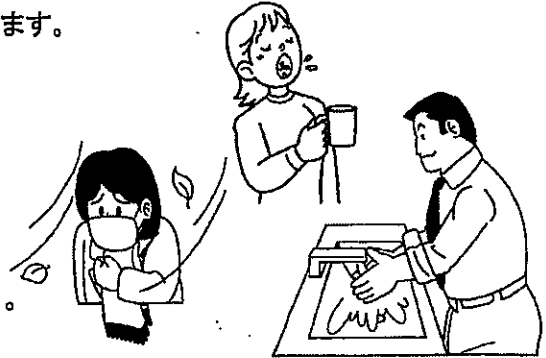


【インフルエンザの予防】

インフルエンザの予防には、予防接種が有効です。予防接種を受けることでインフルエンザにかかりにくくなり、かかっても重くなりにくくなります。

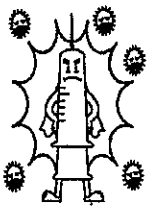
日常生活ではこんなことに気をつけましょう。

- ①外出時にはマスクをしましょう。
- ②帰宅時には手洗いとうがいを心掛けましょう。
- ③睡眠を十分にとり、栄養に気を配りましょう。
- ④室内が乾燥しないようにしましょう。
- ⑤なるべく人ごみに出掛けることを避けましょう。



【インフルエンザ予防接種の副反応】

- ①予防接種の注射の跡が、赤みを帯びる、はれる、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。
- ②わずかながら熱が出たり、寒気がする、頭痛、全身のだるさなどがみられることもあります。これらも通常2～3日のうちに治ります。
- ③接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。
- ④非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難が現れることがあります。



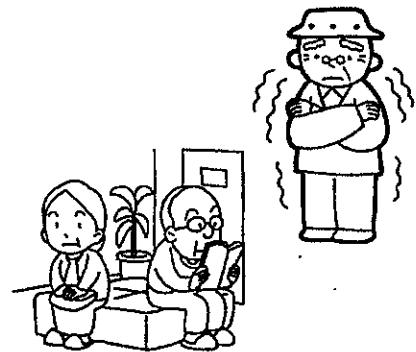
予防接種を受ける前に

(1) 一般的な注意

インフルエンザの予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気になることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、保健センターに相談しましょう。十分に理解できない場合には接種を受けないください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。

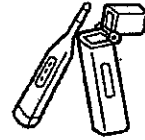
接種を受ける人は責任を持って記入し、正しい情報を接種医師に伝えてください。





(2) 予防接種を受けることができない人

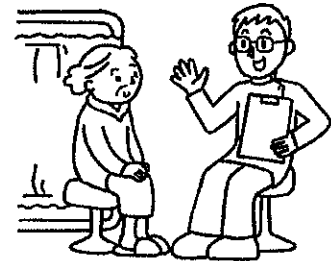
- ①明らかに発熱のある人。(体温が37.5度を超える人)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて ※ アナフィラキシー を起こしたことがある人。
- ④その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人。



※「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応をいいます。

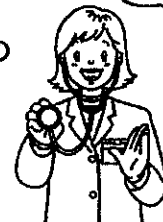
(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人。
- ②前に予防接種を受けた時に、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを思わす異常がみられた人。
- ③今までにけいれんを起こしたことがある人。
- ④過去に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人。
- ⑤インフルエンザ予防接種の成分、または鶏肉、その他卵製品などに対してアレルギーがあるといわれたことがある人。



予防接種を受けた後の注意

- ①インフルエンザワクチンを受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。
医師(医療機関)とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ②インフルエンザワクチン接種後、24時間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動や飲酒は避けましょう。
- ⑤万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。



副反応が起こった場合

予防接種の後まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時にほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けた後、接種部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、低血圧、高熱などが現れたら、医師の診察を受けてください。

